

自動詞・他動詞の習得 —明示的指導の波及効果—

近藤隆子（静岡県立大学）・

白畑知彦（静岡大学）

外国語教育メディア学会（LET）

第94回中部支部研究大会

2019年12月14日（土）

他動詞用法と自動詞用法の混同 :

日本語母語話者(JLEs)の誤り例

- 自動詞なのに受動態で使ってしまう例 :

*Several car accidents were happened.

(= Several car accidents happened.)

- 他動詞を自動詞として使用する例 :

*Mary promoted to manager.

(= Mary was promoted to manager.)

言語を習得する際、学習者にとって重要な課題の1つは、当該言語において、動詞がどのような構造（要するに、項構造）を取るのかを理解することだと思えます。

本発表の目的

1. 教師の明示的指導が、JLEsが自動詞と他動詞の用法の相違に気づくのに役立つかどうかを検証する
2. 指導の効果が説明に含まれた動詞だけでなく、含まれなかった動詞にも波及するかどうかを検証する
3. 実験結果の英語教育への応用

自動詞の過剰受動化の例

(1)

- a. *Their parents **were died** by car accident.
- b. *A prejudice may **be disappeared**.
- c. *I don't know what **was happened**.

(Oshita 1997: 329)

他動詞の自動詞使用許容例： (文法性判断テストより)

(2)

- a. *She **accepted** as a full-time student at Tokyo University.
- b. *She **invited** to a personal interview.
- c. *He **employed** in a lawyer's office.

(Kondo 2014)

- **このような誤りを減らしたい。**
- それには、**自他動詞の用法の相違について、大学生にもう一度、明示的に指導すること**が有効であると考ええる。
- さらに、**指導の波及効果**についても考察したい。

なぜ有効か、

- 自他動詞の用法の学習は、以下の項目に全て当てはまるからである（白畑, 2015）。
- 規則の内部構造が単純
- 語彙的意味の伝達が主となる
- 日本語に類似した概念・構造が存在する
- 今まで十分に教えてこられなかった

という仮説

実験をおこないました

Kondo, et al (2019)

実験目的：

大学生JLEsにとって、

- 明示的指導が自他動詞の混同解決に効果的かどうか検証
- 直接教えていない動詞の使用にも明示的指導の効果が波及するかどうか検証

実験参加者

日本語を母語とする英語学習者(JLEs)

- ✓ **実験群** : 15 university students in Japan (L1: Japanese; Age: 18-19; OQPT¹: elementary - upper-intermediate)
- ✓ **統制群** : 18 university students in Japan (L1: Japanese; Age: 18-20; OQPT: elementary - upper-intermediate)

¹ Oxford Quick Placement Test (OQPT) (2001)

実験手順



テスト内容: 自動詞

テストでの指示

各問題は日本文と英文で構成されています。日本文は状況・場面を説明しています（英文の訳ではありません）。日本文の状況説明文を読んで、続きの内容が英文で書かれているので、その英文の空欄部分に、与えられた動詞（日本文の最後に下線で引かれた動詞）を適切な形にして書きなさい（品詞を変えないこと）。

- (3) 新しい道路が山を切り開いて作られた。 disappear
Half of the forest _____.

テスト内容: 自動詞

テストでの指示

各問題は日本文と英文で構成されています。日本文は状況・場面を説明しています（英文の訳ではありません）。日本文の状況説明文を読んで、続きの内容が英文で書かれているので、その英文の空欄部分に、与えられた動詞（日本文の最後に下線で引かれた動詞）を適切な形にして書きなさい（品詞を変えないこと）。

- (3) 新しい道路が山を切り開いて作られた。 disappear
Half of the forest (has) disappeared.

テスト内容: 他動詞

(4) トムはそのプロジェクトで素晴らしい仕事をした。

promote

As a result, he _____.

テスト内容: 他動詞

(4) トムはそのプロジェクトで素晴らしい仕事をした。

promote

As a result, he *was promoted*.

表 1. 実験でテストした動詞

Verb type	±instruction	Verb Items
非対格動詞	instructed	<i>appear, happen, rise, exist, remain</i>
	non-instructed	<i>fall, depart, disappear, die, belong</i>
非能格動詞	instructed	<i>cough, swim, jump, talk, chat</i>
	non-instructed	<i>sweat, walk, dance, work, play</i>
他動詞	instructed	<i>accept, hire, invite, damage, destroy</i>
	non-instructed	<i>publish, reject, build, promote, read</i>
両用動詞	instructed	<i>break, open, melt, freeze, sink</i>
	non-instructed	<i>sell, close, increase, dry, change</i>

表 1. 実験でテストした動詞

Verb type	± instruction	Verb Items
非対格動詞	instructed	<i>appear, happen, rise, exist, remain</i>
	non-instructed	<i>fall, depart, disappear, die, belong</i>
Unergative	instructed	<i>cough, swim, jump, talk, chat</i>
	non-instructed	<i>sweat, walk, dance, work, play</i>
他動詞	instructed	<i>accept, hire, invite, damage, destroy</i>
	non-instructed	<i>publish, reject, build, promote, read</i>
Alternating	instructed	<i>break, open, melt, freeze, sink</i>
	non-instructed	<i>sell, close, increase, dry, change</i>

実験結果

表 2. 自動詞の実験結果(各5点満点)

		Pre-test		Post-test 1		Post-test 2	
		<i>M</i>	<i>SD</i>	<i>M</i>	<i>SD</i>	<i>M</i>	<i>SD</i>
実験群	instructed verbs	3.93	0.77	4.47	1.09	4.60	0.80
	non-instructed verbs	3.67	1.01	4.67	0.47	4.47	0.72
統制群	instructed verbs	3.83	0.90	n/a	n/a	3.78	1.03
	non-instructed verbs	3.39	1.25	n/a	n/a	3.06	1.18

表 3. 他動詞の実験結果(各5点満点)

		Pre-test		Post-test 1		Post-test 2	
		<i>M</i>	<i>SD</i>	<i>M</i>	<i>SD</i>	<i>M</i>	<i>SD</i>
実験群	instructed verbs	4.33	0.87	4.87	0.34	4.13	0.96
	non-instructed verbs	3.80	0.91	4.33	0.60	4.07	0.57
統制群	instructed verbs	4.11	0.94	n/a	n/a	3.94	1.35
	non-instructed verbs	4.06	0.78	n/a	n/a	4.22	0.53

平均点の推移:

自動詞（非対格動詞）

図 1 : 実験群における自動詞の平均点推移 (n=15)

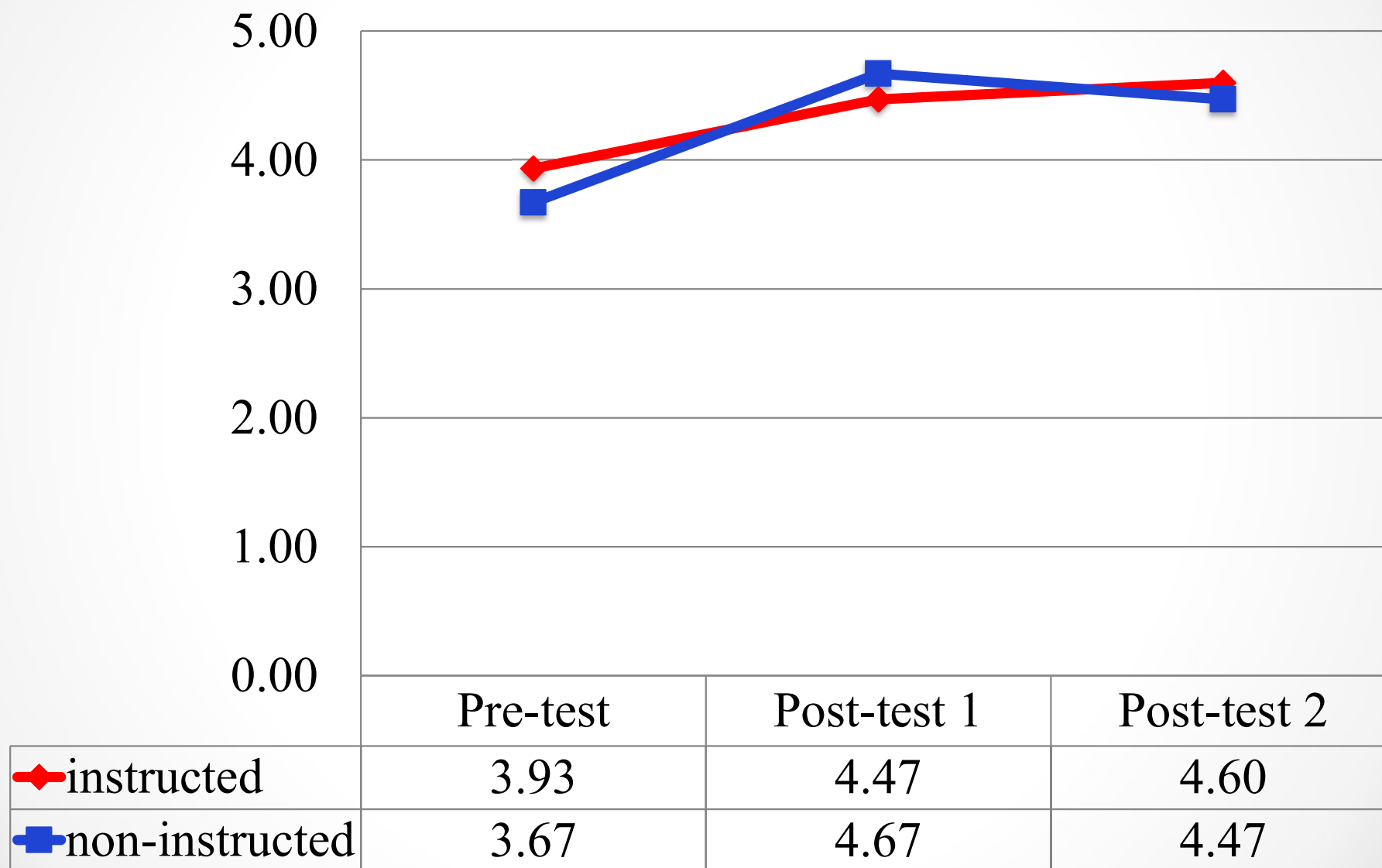
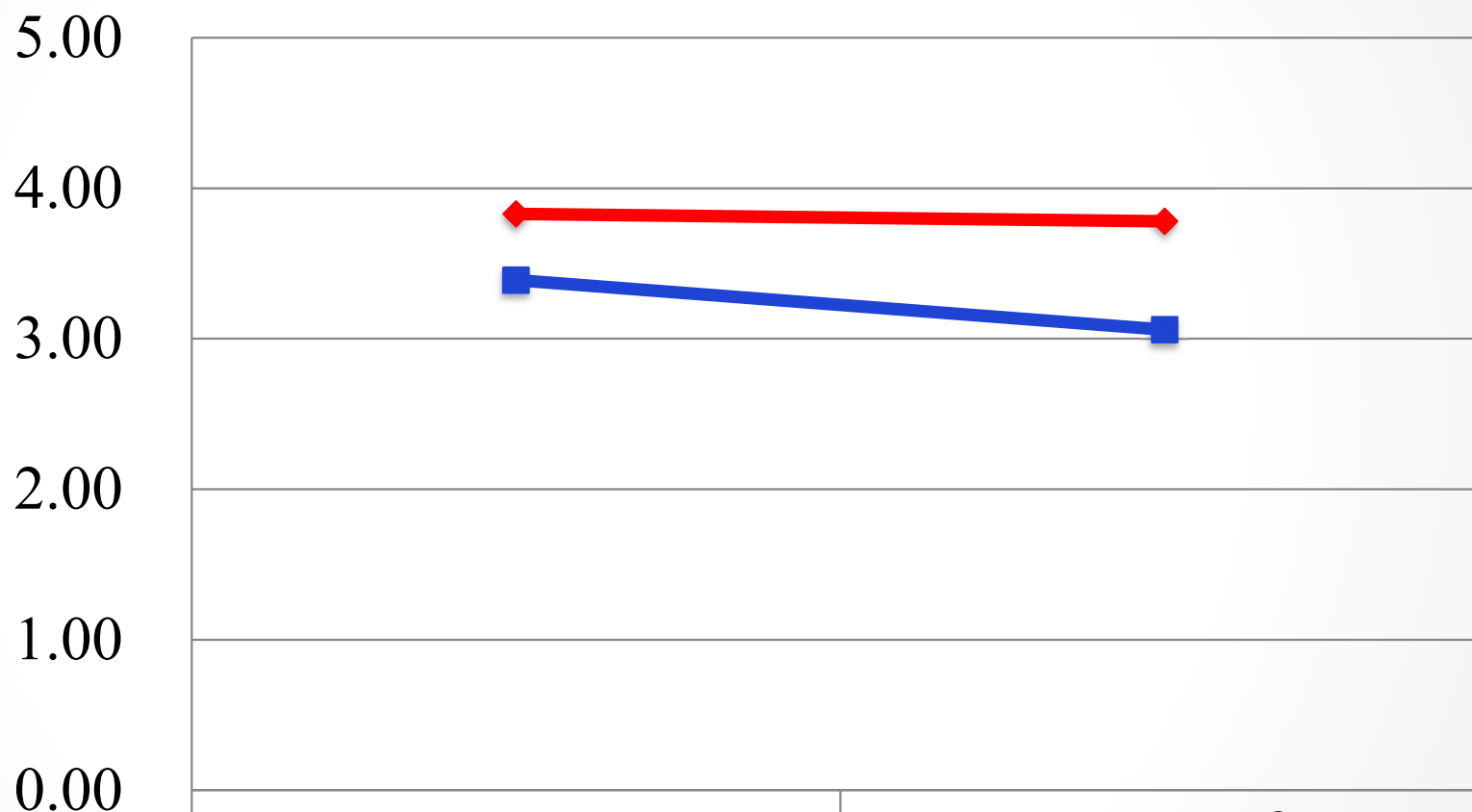


図 2 : 統制群における自動詞の平均点推移 (n=18)

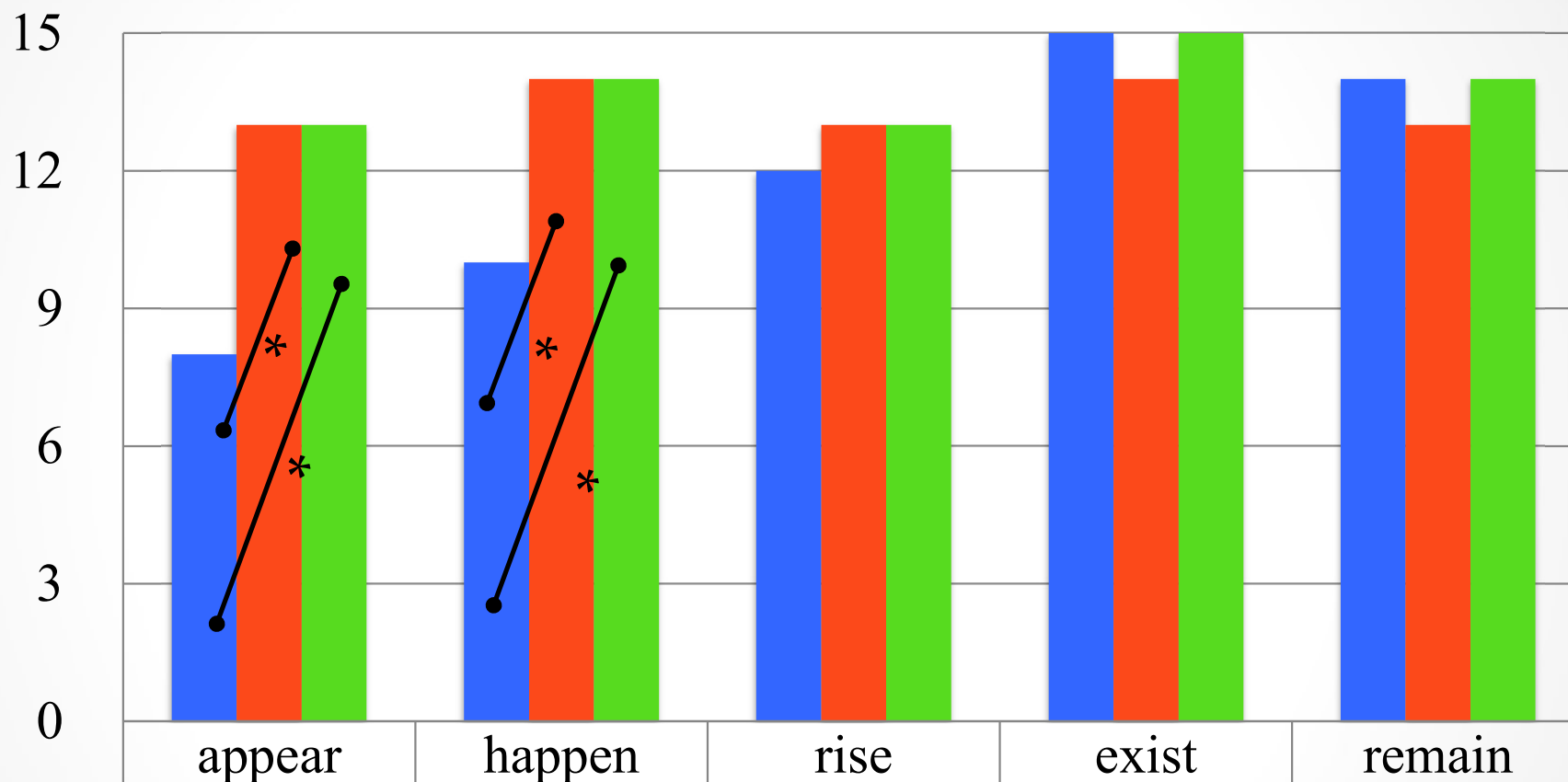


◆ instructed	3.83	3.78
■ non-instructed	3.39	3.06

動詞別結果：

自動詞

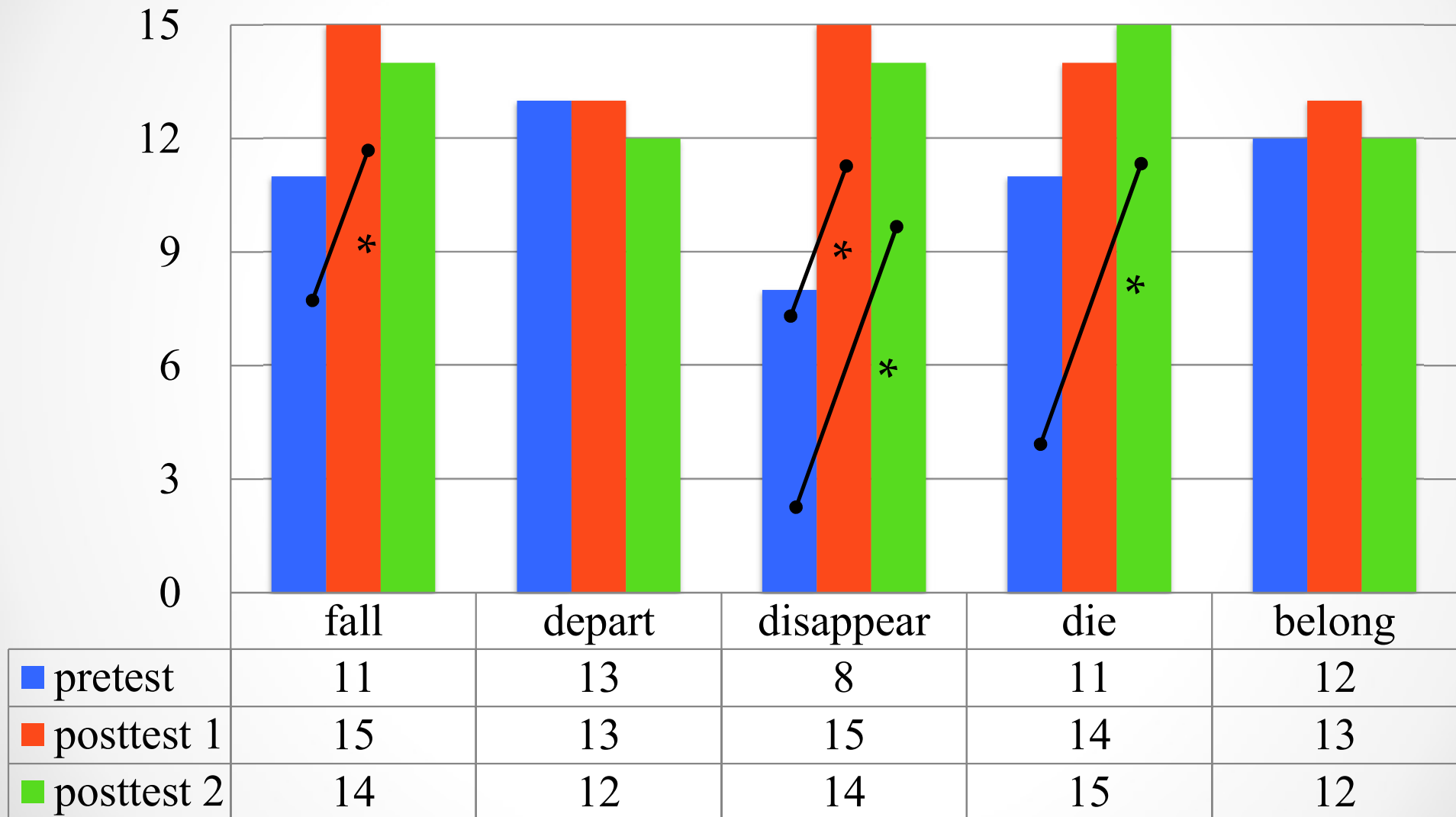
図5. 指導を与えた自動詞の正答数推移: 実験群(n = 15)



■ pretest	8	10	12	15	14
■ posttest 1	13	14	13	14	13
■ posttest 2	13	14	13	15	14

*p<.05 **p<.01 ***p<.001

図6. 指導を与えなかった自動詞の正答数推移：
実験群 (n = 15)



*p<.05 **p<.01 ***p<.001

自動詞の結果のまとめ

- テスト間の比較（実験群）：
ポストテスト 1 & 2 > プレテスト
- 効果が持続していた（少なくとも8週間）
- 動詞別の結果：
 - ✓有意に正答数が高くなった動詞：
appear, happen, fall, disappear, die
 - ✓その他の動詞も基本的に向上の傾向
- 指導効果の波及が見られた

なぜ波及効果があったのか？

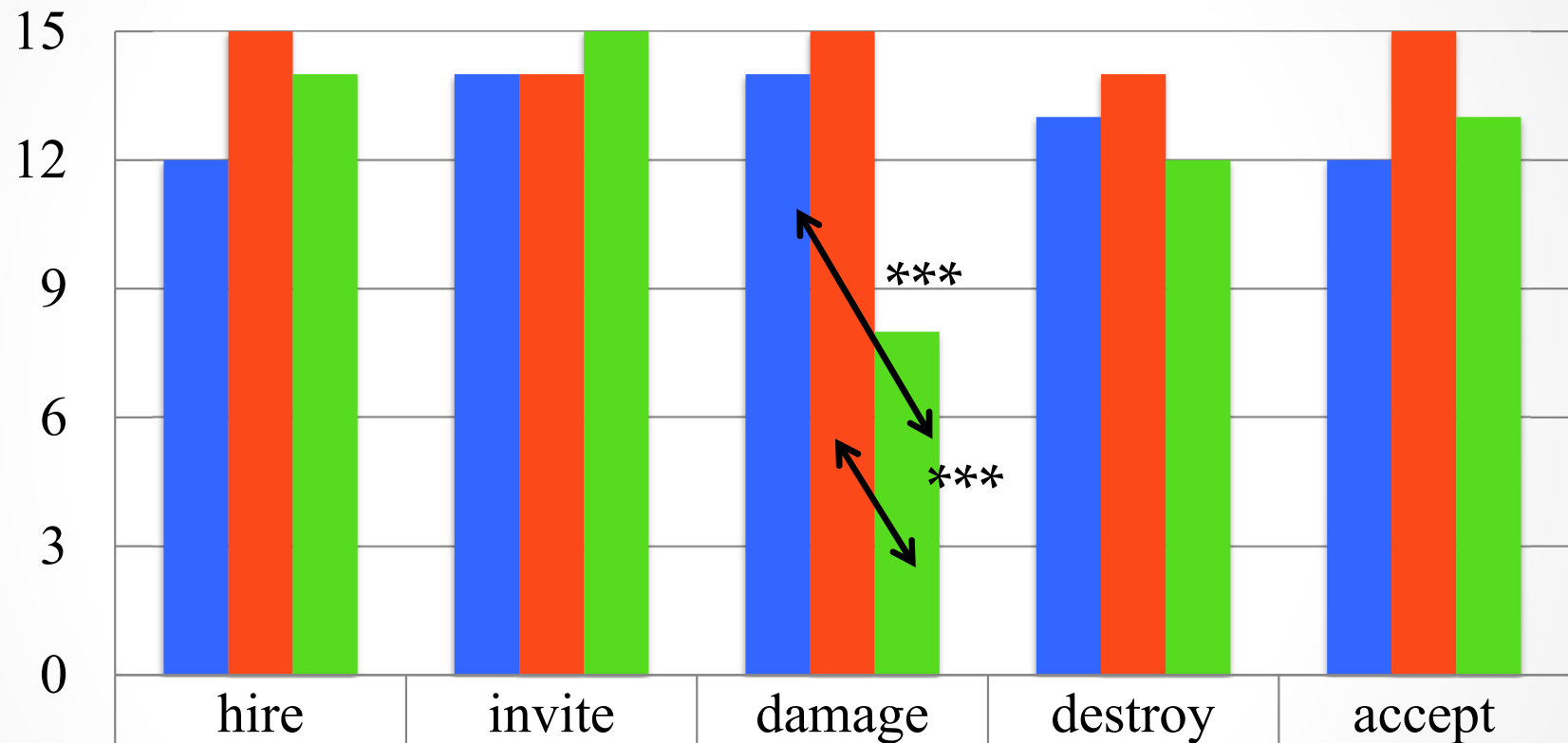
推測：

- 学習者は、自動詞、他動詞について明示的に意識するようになった。
- 日本語にも同じように自動詞、他動詞があることに気づき、そこから類推することができるようになった。

動詞別結果:

他動詞

図7. 指導を与えた他動詞の正答数推移：
実験群 (n = 15)



■ pretest	12	14	14	13	12
■ posttest 1	15	14	15	14	15
■ posttest 2	14	15	8	12	13

*p<.05 **p<.01 ***p<.001

Posttest 2で、damageだけ なぜ正答数が下がったのか？

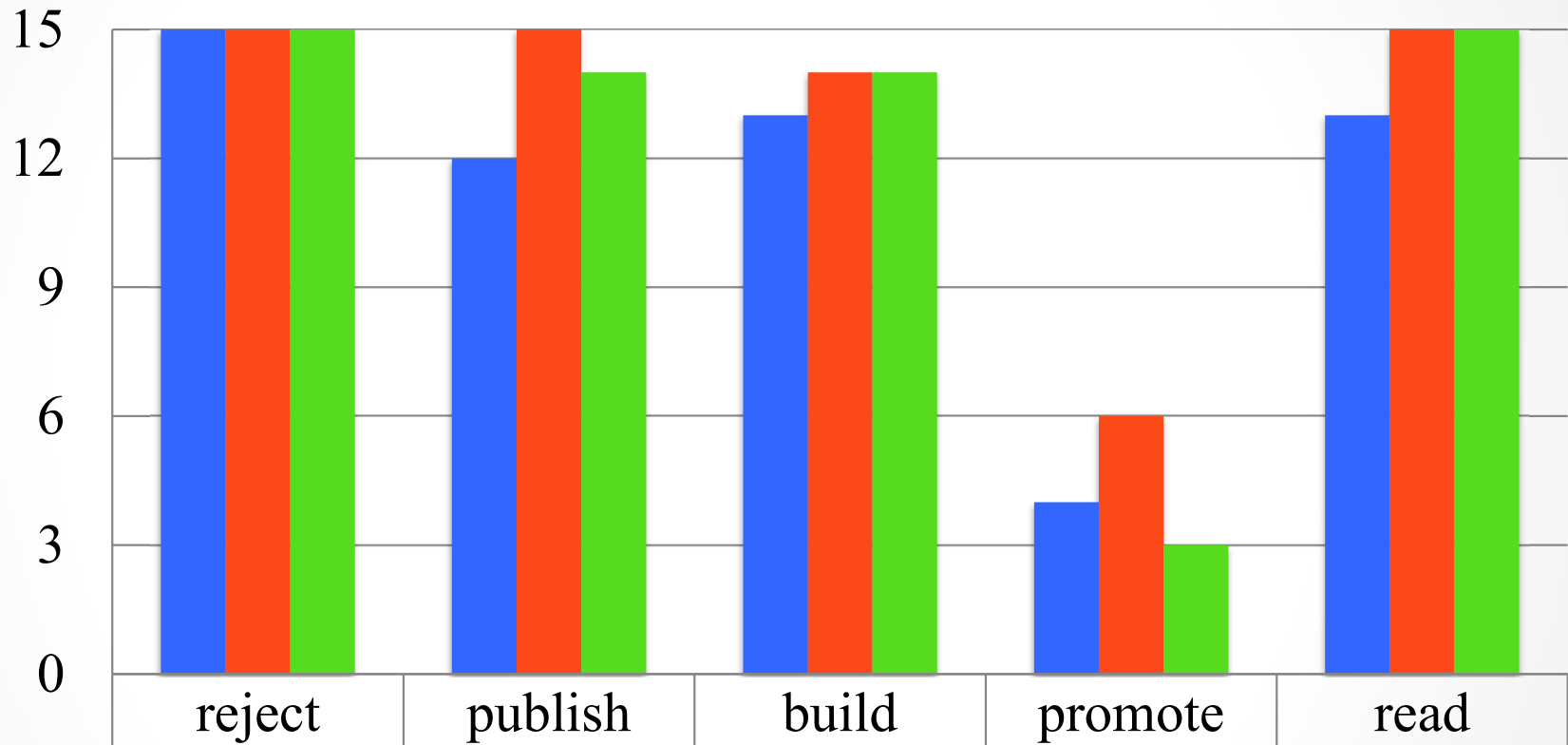
(5) 空港の荷物係は、私のスーツケースを放り投げたようだ。

My luggage **damaged* on arrival. (7/15)

(正答) :

My luggage *was damaged* on arrival.

図 8. 指導を与えなかった他動詞の正答数推移：
実験群 (n = 15)



■ pretest	15	12	13	4	13
■ posttest 1	15	15	14	6	15
■ posttest 2	15	14	14	3	15

なぜpromoteだけ誤りが多いのか？

(6) トムはそのプロジェクトで素晴らしい仕事をした。

As a result, he *promoted.

結果として、彼は昇進した/*昇進させられた。

日本語の例からは類推できなかつた。

✓ Dictionary example sentence:

be *promoted* by selection

選抜で昇進する

実験結果のまとめ

- (i) 明示的指導は自動詞用法に特に効果が見られた。
- (ii) その効果は持続した。
- (iii) 他動詞用法では「天井効果」が出てしまい、指導効果がはっきりしなかった。
- (iv) 明示的指導には、波及効果のあることが判明した。
- (v) damageとpromoteの用法には注意が必要。

英語教育への応用（1）

- **大学生に**、自動詞、他動詞の相違や用法を確実に理解してもらうための明示的指導は有効である。
- それは、当該項目が以下の条件に全て当てはまるからであろう（白畑, 2015）。
- **規則の内部構造が単純**
- **語彙的意味の伝達が主となる**
- **日本語に類似した概念・構造が存在する**
- **今まで十分に教えられてこなかった**

英語教育への応用（2）

- 自他動詞の用法への指導は、指導の波及効果が期待できる文法項目である。
- 中学や高校においても、関連する動詞が新出単語として出て来る度に、その動詞が自動詞用法のものか、他動詞用法のものかを簡潔に教えていくことがその後の波及効果を生むきっかけになるのではないか？

英語教育への応用（3）

- 英語の動詞を教える際に、**自動詞なのか、他動詞なのか、自他両用動詞なのかを、例文とともに明確に教えることが重要ではないか。**
- 自動詞、他動詞という区別を早い時期（中学校時代）から意識させたい。
- 誤りをしたら、指摘するとかかなり修正できる項目のため、**意識的に指摘してあげることも必要かもしれない。**

英語教育への応用（４）

- Promoteのように、**日本語との相違がある動詞**には特に気をつけたい。
- その他、注意すべき動詞として、enjoyなども自動詞として使用しがちである。
例：僕は京都でとても楽しんだ。
*I enjoyed very much in Kyoto.

参考文献

- Hirakawa, M. (1995). L2 acquisition of English unaccusative constructions. In MacLaughlin, D. and McEwen, S., eds., *Proceedings of the 19th Boston University Conference on Language Development*. Summerville, MA: Cascadilla Press, 291-302.
- Hirakawa, M. (2006). 'Passive' unaccusative errors in L2 English revisited. In Slabakova, R., Montrul, S. and Prevost, P. eds., *Inquiries in Linguistic Development*. Amsterdam: John Benjamins.
- Kondo, T. (2014). Errors in the usage of transitive verbs in second language acquisition: overgeneralization of intransitive structure. *Journal of the Chubu English Language Education Society*, 43. 65-72.

- Kondo, T., Shirahata, T., Suda, K., Ogawa, M. & Yokota, H. (2019). Effects of explicit instruction on intransitive and transitive verbs in L2 English. Talk at JASELE. Hirosaki University. August, 18.
- Oshita, H. (1997). *“The unaccusative trap”*: L2 acquisition of English intransitive verbs. Unpublished doctoral dissertation, University of Southern California, Los Angeles.
- Oshita, H. (2000). What is happened may not be what appears to be happening: A corpus study of ‘passive’ unaccusatives in L2 English. *Second Language Research*, 16, 293-324.
- University of Cambridge Local Examinations Syndicate 2001. Quick Placement Test. Oxford: Oxford University Press.
- Zobl, H. (1989). Canonical typological structures and ergativity in English L2 acquisition. In *Linguistic perspectives on second language acquisition*, Susan Gass and Jacqueline Schachter (eds.), 203-221. New York: Cambridge University Press.